WORK
Concept For Baja Forged Beadlock

●取材協力：WORK（https://www.work-wheels.co.jp）
● CRAG SPECIAL SITE（https://crag.work-wheels.jp）

PHOTO●清野 央　TEXT●マーク清原、編集部

日本が誇るアルミホイールメーカー『WORK（ワーク）』。多くのホイールブランドを擁するが、その中でオフロードに特化したホイールが『CRAG（クラッグ）』。Crossover（クロスオーバー）Racing（レーシング）Gear（ギア）の頭文字が取られたこのブランドは、コンペティションシーンで勝つために造り出されたという背景を持つ。

「メキシコで開催される世界的なオフロードレース『Baja 1000』で戦える国産ホイールを造って欲しい」…そうWORKに話を持ち込んだのは、オフロードレーサーの塙 郁夫（はなわ・いくお）選手。塙さんといえば、JFWDA・チャンピオンシップレースシリーズで10年連続チャンピオンを獲得した後、1991年にBaja1000に参戦。日本人初の完走を成し遂げ、2002年にはクラス優勝を果たした人物だ。その塙さんが常々思っていたのが「軽いビードロックホイールがあればイイのに」ということだった。

※　※

塙：ホイールに関しては、アメリカ製ビードロックの装着率が非常に高くて、国産メーカーはほとんど無いに等しい状況だったんだよね。タイヤはずっとヨコハマのジオランダーで、市販のタイヤで勝つというのがポリシーで。そこに日本製の軽いビードロックホイールを加えたいと思ったのが、WORKホイールを履くきっかけかな。それで2015年のBaja 1000参加を決めた後、WORKさんへ相談して、勝てるホイールを造れないかと（笑）。

編集部：日本には多くのアルミホイールメーカーが存在しますが、WORKを選んだ理由とは？

塙：軽いビードロックホイールがあれば勝てる、ということはいくつかのメーカーに話していたんだけど、真っ先に乗ってくれたのがWORKさんだった。数々のレースで多くの実績も残しているWORKなら、きっとやってくれると思えたし（笑）。そうしたら、本当に鍛造のスペシャルホイールを比較的短期間で完成させてくれた。

編集部：それがBaja Foged Beadlock 2015モデルですね。

塙：アメリカにもビードロックホイールは数々あるけど、どれも本当に重い。堅牢さを重視している結果だろうけど、レースする側としたら、軽いにこしたことはない。ハンドリングもドライバーの疲労度も軽いことがメリットになることは明確。でも軽くても割れてバーストするようなホイールでは困る。特にBaja1000のような1000マイルをぶっ通しで走るレースでは、バーストによるタイムロスは大きく順位を落とす原因です。しかも砂漠やオフロードのみならず、オンロードも入るので、あらゆる路面でタイヤを支えるホイールでなければ勝てない。2015年に出場したBaja 1000は、オリジナル設計の2WDバギーでの参戦で、ホイールに関するデータは無かったんだけど、これまでの経験からボクの希望を伝えながら、WORKさんに造ってもらったんだよ。

最初に依頼したのは30本かな。完成したそのホイールはとにかく軽くて、市販の4WD用ホイールとほぼ同じ重量。ビードロック付きだと1・5倍は重くなるのが一般的だから、もの凄く感動した！

編集部：軽くて堅牢というビードロックホイールという以外に、塙さんがWORKに伝えた要望は？

塙：まずエアバルブ。品質が良いものでなければダメなのはもちろん、石などがヒットしにくい形状であることも重要。その答えが、小さめのホールにエアバルブを仕込むことで、必要以上に倒れないものとしていた。また、ビードロックリングは脱着しやすいように、ボルトを回しやすい形状としてくれているんだよね。泥などが詰まりにくい形状であったり、細部にこだわっているのが『Baja Foged Beadlock 2015モデル』だね。

ディスクのデザインはWORKさんが強度と軽量化を達成させるための結果で、デザイン優先で誕生したものではない。ボクはカッコイイホイールだと感心していたんだけど、むしろ機能優先だと知って嬉しかった。目的は何より勝てるホイールだったから。ちなみにビードリングをオレンジカラーにしたいと希望したのは、ボクね。

編集部：その理由は？

塙：当時カラフルなビードロックホイールは、アメリカにも無かったから、目立つしカッコイイ（笑）。最近こそカラフルなリングが増えたけど、最初はWORKだね！

編集部：2015年に誕生したBaja Foged Beadlock 2015モデルは、2017年に登場するCRAG T-GRABICのベースデザインとなりましたよね。ただし、2016年にBaja Foged Beadlock 2016モデルが登場しましたが、これはどうしてですか？

塙：Baja Foged Beadlock 2015モデルは、トラブルもなく、実は今でも当時のホイールを使い続けているほど、信頼できる。ただしひとつだけ難点があって、それを解消したのがBaja Foged Beadlock 2016モデルだった。

編集部：その難点とは一体？

塙：ボクらはレーシングマシンも基本的に自分達のトレーラーに積んで運ぶんだけど、その時に、タープをホイールに通して固定するんだよ。ところが、当時使っていたタープが、Baja Foged Beadlock 2015モデルだと穴が小さくて通らなくて（笑）。

編集部：性能やデザインではなく、ホイールの穴にタープが通らなかったことが、Baja Foged Beadlock 2016モデルの登場の理由だったのですか！　ただこのホイールは、2018年に登場するCRAG T-GRABICⅡの基となったデザインで、結果としてT-GRABICシリーズのバリエーション増加にも繋がっていますね。

塙：市販のT-GRABICシリーズは、Baja Foged Beadlockの鍛造とは異なり鋳造なのですが、ボクはこれを履いて実際にアジアクロスカントリーラリー（AXCR）にも出場しています。鋳造の市販品でも、T-GRABICシリーズは十分に高い剛性と軽さを実現しているんです。

また、AXCRは特にビードロックホイールだとタイヤの組み替えができない状況が多い。結果として、川の中で切った時の1回しかタイヤ交換はしなかった。それほど信頼性が高いんだよね、T-GRABICシリーズは。

※　※

塙選手は、2022年3月9日～13日に行なわれたアメリカンレース『The Mint400』にもBaja Foged Beadlock 2016モデルを履いて出場し、見事にクラス優勝を果たした。まさに『WORK CRAG T-GRABIC』シリーズは、レースで勝つためのホイールであることを実証している。そして塙選手とWORKの挑戦は、これからも続いていくのだろう。

WORKのオフロードホイール専用ブランド『CRAG（クラッグ）』。
ダブルギアスポークデザインを採用した『CRAG T-GRABIC』シリーズは、
多くの4WD・SUVオーナーを魅了しているが、これまでに無い個性的なデザインを特長としている。
そのデザインは、実はモータースポーツで勝つために生まれたレース直系DNAを受け継ぐホイールだった。

ゼロからの挑戦

「壊れるまで使い続ける」ことで、パーツのデータ収集を行なうという塙選手。しかし、Baja Forged Beadlock シリーズはトラブルが無いため、長期に渡り使い続けている。

3月のThe Mint400参戦に続き、5月15日に開催されたLOTTEスーパー耐久2HRレースに塙親子がBaja Forged Beadlock 2015 MODELを履いたハイラックスで出場。目的は塙 雄大選手の練習でダイナミックな走りを披露。

日本屈指のレーシングドライバー・塙親子

レーシングドライバー
塙 郁夫選手

JFWDAチャンピオンシップレースシリーズで10年連続チャンピオン、Baja1000の日本人初完走、2020年にはダカール・ラリーでチームスガワラ2号車のドライバーを務めるなど、日本屈指のオフロードレーサーだ。

レーシングドライバー
塙 雄大選手

塙 郁夫選手のご子息。自身はジムニーでレーシングドライバーを務めつつ、近年は郁夫氏のコ-ドライバーとして、ダカール・ラリーやThe Mint400などに出場し、好成績を収めた。今後を担うドライバーとしても注目される。

WORK Concept For Baja Forged Beadlock 2015 MODEL

Baja1000やTHE Mint400といったレース時だけでなく、普段のプラクティスや国内イベント参加時にも使用しているBaja Forged Beadlock 2015 MODEL。数々のキズは付いているが、これまでにトラブルは一度もないというホイール。

2018

CRAG T-GRABICのダブルギアスポークデザインを踏襲しつつも、センター部を力強い6本スポークとしたのがCRAG T-GRABICⅡ。Baja Forged Beadlock 2016 MODELを基にデザインされた鋳造ホイールである。

2017

2015 MODELのデザインを引き継いで鋳造で市販化された『CRAG T-GRABIC』。ダブルギアスポークデザインは、軽量化と高剛性を高次元で融合できることから採用。機能美を集約したともいえる革新的なデザインのホイールだ。

2016

2015 MODELのコンセプトとパフォーマンスを引き継ぎながらホイール外周部のホールデザインを若干大きくした『Baja Forged Beadlock 2016 MODEL』。レースマシンへの固定時の利便性などを考慮している。

2015

塙選手がオリジナルのマシンで参加を決めたBaja1000への出場をきっかけに開発されたワンオフの鍛造ホイールである『Baja Forged Beadlock 2015 MODEL』。CRAG T-GRABICのベースデザインとなったモデルだ。